

指定緊急避難場所

施設名称	使用箇所
鍋田川上流排水機場	屋上
福徳商事(株)	工場3階
北部地区津波避難タワー	1層、2層
町民ホール	ホール、屋上
中部置材(株)	倉庫2、3階
木曽岬小学校	校舎3階、屋上
木曽岬中学校	校舎3階、屋上
石田鉄工(株)	事務所3階、屋上
はごろもフーズ(株) 木曽岬プラント	倉庫3階
防災センター	2階、屋上
浅井工業(株)	事務所2階
鍋田川下流排水機場	屋上
南部地区津波避難タワー	1層、2層

指定避難所

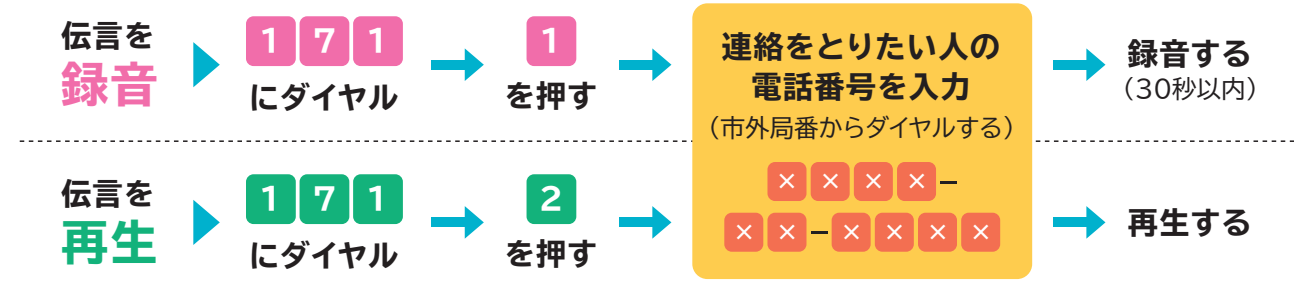
施設名称	対象地区
加路戸集会所	新加路戸・上加路戸
農村集落多目的共同利用施設	上見入・東見入・辰高
北部公民館	中加路戸・大新田・外平喜
木曽岬こども園	下見入・上和泉
町民ホール	西対海地・小林
福祉・教育センター	西対海地・小林
ふるさと創生ホール	小和泉
木曽岬小学校	福崎・西白鷺川・栄・第二栄
木曽岬町体育館	近江島・田代・脇付・雁ヶ地
木曽岬中学校	下和泉・富田子・中和泉・かおるヶ丘・中栄・第二富田子・第三富田子
東部公民館	南栄・新富田子・東富田子
(旧)南部幼稚園・保育園	豊崎・川先・白鷺・源緑・下藤里・上藤里・松永・藤里台・なぎさ台

福祉避難所

施設名称	収容可能人数(人)	施設名称	収容可能人数(人)
保健センター	70	社会福祉法人 慈幸会すいせんの里	50

災害用伝言ダイヤル「171」

災害時に提供が開始される安否確認ダイヤルです。



利用できる電話

加入電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)・公衆電話・ISDN・携帯電話・PHS・IP電話

※伝言の録音・再生は、被災地の方の電話番号宛に行う必要があり、この電話番号は市外局番で始まる電話番号、携帯電話・PHSの電話番号、IP電話の電話番号が対象です。
※詳細はご利用の電話会社にお問い合わせください。

注意点

- 伝言録音時間は、1伝言当たり30秒以内。
- 1電話番号当たり、1～20伝言まで登録できます。(登録できる伝言数を超えると、古い伝言から削除されます。)
- 伝言の保存時間は、登録してから災害用伝言ダイヤル「171」の提供期間が終了するまでであり、保存時間を過ぎると消去されます。
- 災害用伝言ダイヤルを運営しているNTT(東西)の提供する加入電話、公衆電話、ISDN、ひかり電話から伝言を録音・再生する場合の通話料は無料です。(その他の事業者の電話、携帯電話やPHSから発信する場合の通話料の有無等については各事業者にお問い合わせください。)

発行年月:令和2年(2020)8月 監修:三重大学 大学院工学研究科 准教授 川口淳
発行:木曽岬町 危機管理課 〒498-8503 三重県桑名郡木曽岬町大字西対海地251番地 TEL:0567-68-6101
<https://www.town.kisosaki.lg.jp/> 制作:株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

ハザードマップ

で地域の災害想定を
事前に把握しておこう

洪水 ▶P18 **津波** ▶P20 **高潮** ▶P22

津波の速さは
自動車と同じ!
危険を感じたら即行動



早めの避難が命を救う!
少しでも迷ったら
自主避難を



日々の
コミュニケーションで
防災力を高めよう!
まずはあいさつから

あらゆる手段で情報入手!
**正しい情報を
正しく得よう!**



▶P5

地震発生!
**体を低く、
頭を守り、
動かない**
の3ステップ



▶P12

**避難所、
避難ルートの
チェック**は忘れずに!
家族や地域で話し合おう



▶P8

自分自身の防災力アップ!
**防災訓練に
参加
しよう**



▶P16

**日々の片付け
で減災を!**
家の中の安全を
確認しよう

▶P14



木曽岬町

**命を
守る!**

防

災

ガイドブック

三重県 木曽岬町

木曽岬町の災害



木曽岬町には、高潮や豪雨等による災害の歴史があります。その地形特性から、過去に起こった災害を知り、今後起こりうる災害について備えることが命を救う一歩になります。

旧建設省撮影

伊勢湾台風(昭和34年[1959年])木曽岬村田代の木曽川左岸の破堤箇所を上流側から望む

水との闘いの歴史が繰り返される 海拔ゼロメートル地帯のまち

木曽岬町は、木曽川や伊勢湾に面した、海拔ゼロメートル地帯です。地震による堤防決壊、高潮や木曽三川上流部での記録的な降雨による河川の氾濫等、いくつもの災害が発生してきました。輪中の生命線である堤防が破堤すれば、一瞬でまち全体が水没する恐れのある地域です。

木曽岬町の主な災害

昭和19年 東南海沖地震

(1944年) マグニチュード8.2、震度6、人的被害なし、家屋1棟倒壊、堤防・水路の陥没、田畑の液状化被害多々

昭和34年 伊勢湾台風

(1959年) 最低気圧944.7hPa、平均最大風速36.8m、瞬間最大風速51.3m、全村水没、死者328名

水害のリスクが
高い地域

西は
木曽川に
接する

南は
伊勢湾に
面する

町内は
海拔ゼロ
メートル
地帯

今後、木曽岬町に発生するかもしれない大きな災害

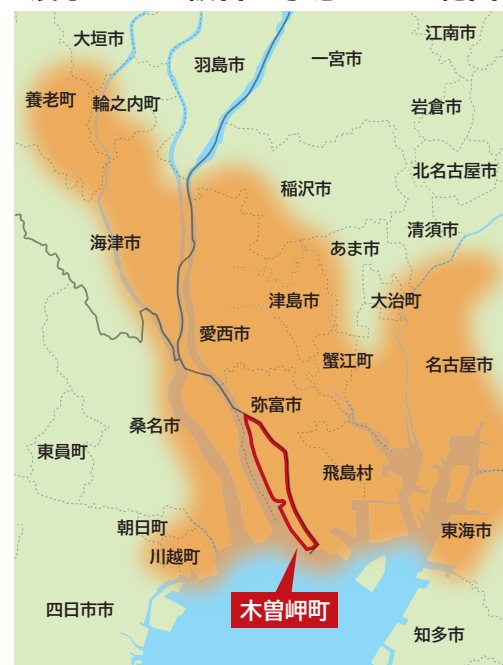
スーパー伊勢湾台風

地球温暖化の影響により、伊勢湾台風を超える台風の襲来が懸念されています。

スーパー伊勢湾台風とは

過去に日本を襲った既往最大の台風である室戸台風(上陸時910hPa)級が、伊勢湾台風の進路をもとに設定された東海地方の低平地に最も大きな被害をもたらすコースをとり、海水が越流した際に堤防を破堤(高潮被害)。さらに、降水量が増加し、高潮のピークの3時間後に木曽川等の河川堤防が破堤することを想定。(洪水被害)
※P22高潮ハザードの作成条件とは異なります。

浸水などの被害が予想される範囲



スーパー伊勢湾台風規模の超大型台風による高潮災害想定(東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会)をもとに作成

南海トラフ巨大地震

南海トラフ沿いを震源域とする海溝型の地震は、関東から四国・九州にかけて極めて広い範囲で甚大な被害をもたらします。特に沿岸部では津波被害も想定されます。また、時間差で別の場所でも巨大地震が発生する場合があります。

南海トラフ巨大地震の
想定震源域

最大震度

7

想定される
津波高

最大 30 m 超

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。

調査中

観測された異常な現象が、南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合

巨大地震警戒

プレート境界でM8.0以上の地震が発生したと評価した場合

巨大地震注意

想定震源域、またはその周辺でM7.0以上の地震が発生したと評価した場合
プレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

調査終了

巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

地震発生後の
防災対応の流れなど
詳しくはコチラから→



もし、大規模な水害が 起こったら…

スーパー伊勢湾台風のような

台風などによって高潮(海面の異常上昇)が起こった場合、海抜ゼロメートル地帯である木曽岬町は浸水する想定です。

町内が 浸水

高潮浸水想定

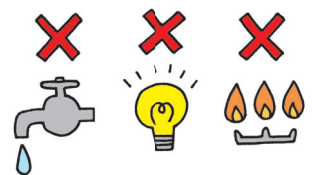
浸水想定エリア



スーパー伊勢湾台風規模の超大型台風による高潮災害想定
(東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会)をもとに作成

町内だけでなく まわりの 地域も 浸水

また、木曽岬町が浸水するときは、広範囲にわたり周辺地域も浸水します。



水道・電気・ガスなど
ライフラインが止まる



何日も
浸水状態が続く



すぐに救助できない
かもしれない

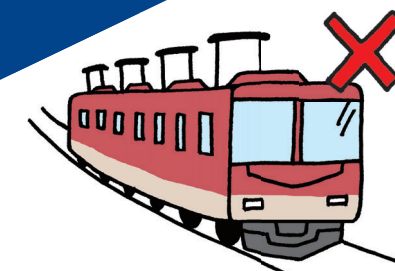


町内の避難所も
浸水するかもしれない

そんな危険が予測される
時には…

早めの準備 早めの避難

一斉に広域避難を
すると、大混乱・
大渋滞が発生しま
す。避難に時間のか
かる人も含め、公共
交通機関や自家用
車で早めの避難を
実施しましょう。



積極的に 情報収集を

風や雨が強まると、公共交通
機関の計画運休も始まったり、
徒歩移動も困難に。テレビやラジ
オなど信頼できる情報源から情
報収集しましょう。



浸水の恐れがない 町外へ避難

大規模な水害の場合、町内は長期間にわたっ
て浸水し、町内の避難所が機能しなくなります。
その場合は、各自で確保した避難先や、広域避難
協定先への避難を実施しましょう。

各自で確保した避難先へ避難

浸水の恐れがない町外の親戚・知人宅、
職場などの避難先へ避難します。



広域避難協定先の避難所へ避難

協定を結んでいる、いなべ市か東員町へ避
難します。

桑名市・いなべ市・木曽岬町・東員町 浸水時における広域避難協定を締結



桑名市、木曽岬町の海抜ゼロ
メートル地帯で高潮・洪水等
により浸水が発生した場合等に、
避難者をいなべ市、東員町が受
け入れます。

※P8「避難のタイミング(広域避難の場合)」参照

逃げ遅れないために

大きな災害で逃げ遅れることは、命の危険を伴います。
自らで災害情報を調べるなどして、避難の判断をしましょう。

まだ大丈夫…と考えていては 逃げ遅れてしまうかも

台風など事前に災害が予見できる場合でも「周囲が避難していないし、大丈夫」など、避難を実施しない人が多いです。**逃げ遅れると、浸水した地域に長期間孤立する可能性も出てきます。**



立ち退き避難の動機

「家族や友人に促された」

41%

立ち退き避難の動機で最も割合が高かったのが「家族や友人に促された(41%)」で、避難の決め手となった理由においても「家族に避難を勧められたから(12.1%)」が2番目に高い割合になっています。家族や近所の人、消防団員、自治会役員など、避難を呼びかける周囲の存在が、避難開始の際に重要になっています。

「地域住民による主体的な避難行動に関する調査研究」
一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会(令和2年[2020年]3月)参照

／ 待っているのはダメ！／

自分から災害情報を調べよう！

災害時は情報が混乱することもある。自分で災害情報を調べて、避難の判断をしましょう。



テレビのdボタン
(データ放送)

dボタンを押せば、気象情報や災害情報などの情報を見ることができます。普段から天気予報などを見て、使い慣れておきましょう。

木曽岬町からの情報発信方法

情報の種類	防災行政無線 (戸別受信機)	緊急速報 メール	CTY データ放送
緊急地震速報	● (Jアラート)	● (気象庁)	
地震情報	● (Jアラート)		●
東海地震情報	● (Jアラート)	● (Jアラート)	●
津波情報	● (Jアラート)	● (Jアラート)	●
特別警報	● (Jアラート)		●
国民保護情報	● (Jアラート)		●
避難情報	●	●	●

※()内は情報発信元、記載のない場合は木曽岬町

木曽岬町配信メール



登録はQRコード先もしくは下記アドレスに
空メールを送信してください。

t-kisosaki@sg-m.jp

警戒レベルの見方

気象庁や自治体から、5段階の警戒レベルを明記した防災情報が提供されます。

警戒レベル相当(例)	警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5相当情報 大雨特別警報 高潮氾濫発生情報 等	警戒レベル 5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報 (市町村が発令)
警戒レベル4相当情報 暴風警報 高潮氾濫危険情報 高潮警報 等	警戒レベル 4 全員避難	すみやかに避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) (市町村が発令)
警戒レベル3相当情報 大雨警報 高潮警報に切り替える 可能性が高い注意報 等	警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児など)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発令)
これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。	警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発令)
	警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発令)

避難のタイミング

はじめに

ハザードマップで
自宅の位置を
確認しましょう

ハザードマップを
確認しながら
下記に自分の避難先を
記入しましょう

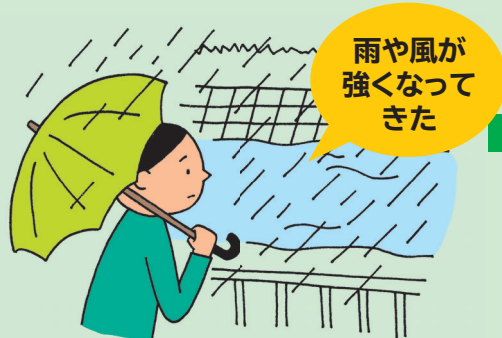
避難時には最低3日分の
食料などを持参しましょう

→P15



豪雨や台風の場合

ハザードマップ→P18



気象情報は？

警戒レベル1 早期注意情報

警戒レベル2 洪水注意報・大雨注意報等

警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始 ※

警戒レベル4 避難勧告・避難指示(緊急) ※

警戒レベル5 災害発生情報

引き続き
情報に注意

避難準備
(高齢者・障害者等は避難)

災害発生中! 命を守る行動をとりましょう!

周囲の様子は？

家屋や道路などが
浸水していない

家屋や道路などの
浸水が始まっている

自宅にとどまり
引き続き情報に注意

近くの安全な場所や自宅内
のより安全な場所へ避難

指定避難所もしくは安全な場所へ避難

※町が浸水状況を予測して指定避難所を開設します

地震や津波の場合

ハザードマップ→P20



津波の心配は？

自宅の状態は？

揺れている時は…

- ☐ 自分の命を守る
- ☐ 逃げ道の確保のため
ドアを開ける
- ☐ ガスの元栓を閉める
など火の始末をする

揺れがおさまったら…

- ☐ 火元の確認・初期消火
- ☐ 家族の安全確認
- ☐ 靴を履く
- ☐ 非常用持ち出し品の確保

なし

津波注意報

あり

大津波警報・津波警報

倒壊等の危険なし

倒壊等の危険あり

自宅避難

指定避難所へ

安全な高い場所へすぐに避難!

緊急地震速報: 津波の危険性が高い

広域避難の場合

ハザードマップ→P22

5～3日前

超大型台風
(スーパー伊勢湾台風)
が接近する
可能性が高まる

2日(48時間)前

広域避難の指示

近所にも避難を促し、
可能な限り公共交通
機関や自家用車で避難

移動手段は？

なし

公共交通機関

避難行動要支援者等は
町でバスを手配

あり

自家用車など

広域避難
完了

12時間前

いなべ市北勢市民会館・
東員町総合文化センターの
一時滞在施設に避難 ※P4広域図参照

自主的広域避難

浸水の恐れがない町外の親戚・知人宅等に避難

0時間前

町内浸水

詳細な場所は
ハザードマップを
確認しましょう

→P18~23

避難所の種類

指定緊急避難場所

津波の危険が迫る場合の一時的な避難先です。災害の恐れがなくなった後は、自宅や指定避難所に移動します。震度5弱以上の地震動で自動的に解錠される防災ボックスが設置されています。

(例) 津波等の災害に対して
安全な構造である
公共施設や企業施設等の
2階以上(学校の屋上など)

指定避難所

浸水害などの危険がなくなるまでの間の避難先として、一定期間避難生活を行う場所です。

(例) 学校・体育館・公民館
などの公共施設



台風 (風水害)

台風は発生が予見できるので、事前の対策と対応が重要です

台風は強い風による被害のほか、大雨に伴って河川の増水、堤防決壊などの恐れもあります。地震等と違って、災害発生が予見できるので、早めの準備や避難が重要です。



風の強さと被害

平均風速(m/秒)	予報用語	人や車への影響	避難のめやす
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくい。傘がさせない。	雨が降る前など、移動が可能であれば、避難所や安全な場所へ移動しましょう。【水平避難】
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩きにくい。転倒する人もいる。	
20以上～25未満	非常に強い風	体を支えていないと転倒する。車の運転は危険な状態。	逃げ遅れたり、浸水が始まっている場合は、建物の高いところへ移動しましょう。【垂直避難】
25以上～30未満		立ってられない。車の運転は危険な状態。	夜間や急激な降雨で視界不良の場合、屋外行動は危険です。その場に留まるか、建物の高いところへ移動しましょう。【垂直避難】
30以上	猛烈な風		

集中豪雨※

梅雨前線などの影響で、限られた地域に短時間で大量の雨が降ります。川の氾濫や排水不良が発生することもあります。



注意するポイント

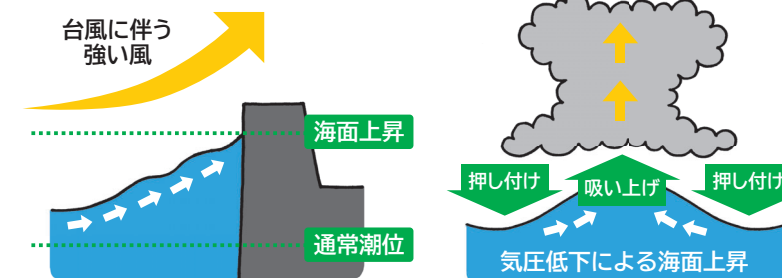
- ⚠ 天気予報で「大気の状態が不安定」「天気の急変」等の表現があるとき
- ⚠ 離れた場所の雨でも影響がある
- ⚠ 短時間で危険な水位になるため用水路などには近づかない

※集中豪雨の定義：狭い範囲に数時間にわたり強く降り、100mmから数百mmの雨量をもたらす雨

台風などによって起こる高潮

高潮とは海面が異常に上昇する現象です。津波とは異なり、台風の接近などに伴って発生することが多いです。海拔ゼロメートル地帯では、高潮による浸水被害を受ける危険性が高くなります。

高潮が発生するしくみ

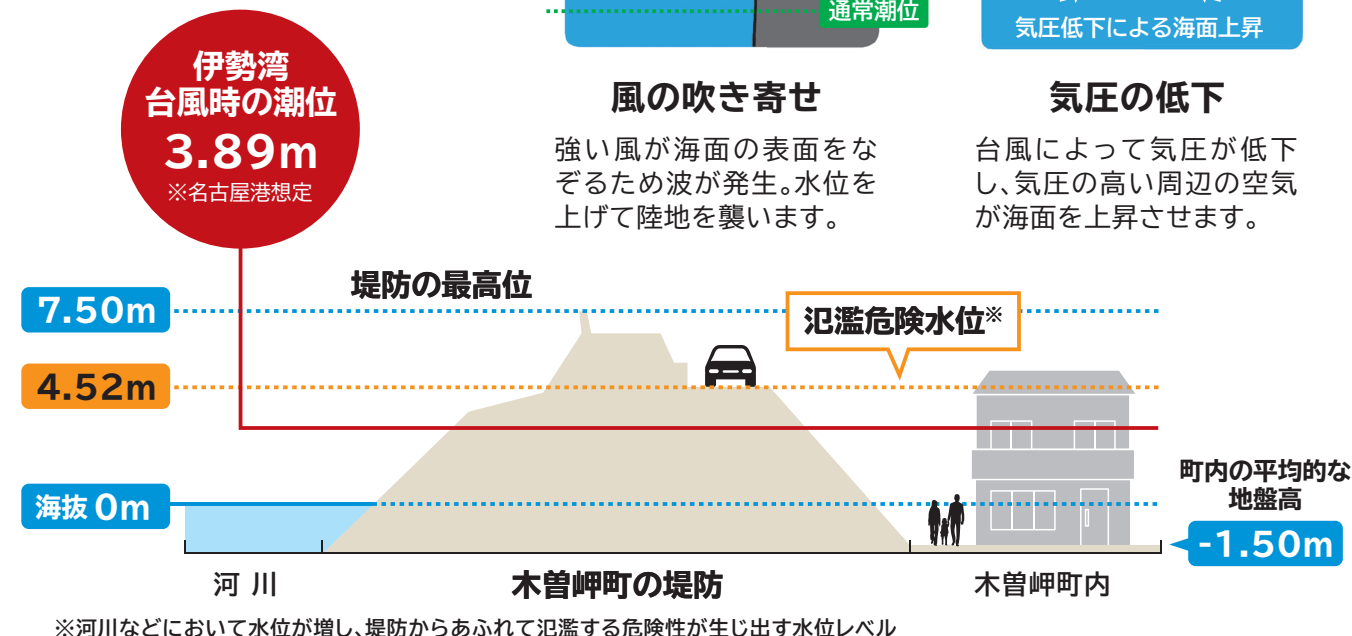


風の吹き寄せ

強い風が海面の表面をなぞるため波が発生。水位を上げて陸地を襲います。

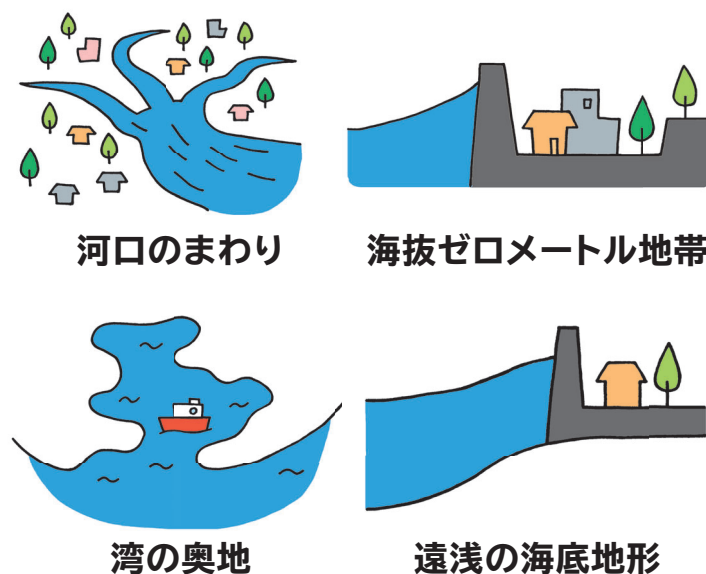
気圧の低下

台風によって気圧が低下し、気圧の高い周辺の空気が海面を上昇させます。



※河川などにおいて水位が増し、堤防からあふれて氾濫する危険性が生じ出す水位レベル

高潮の被害を受けやすい場所



とるべき行動

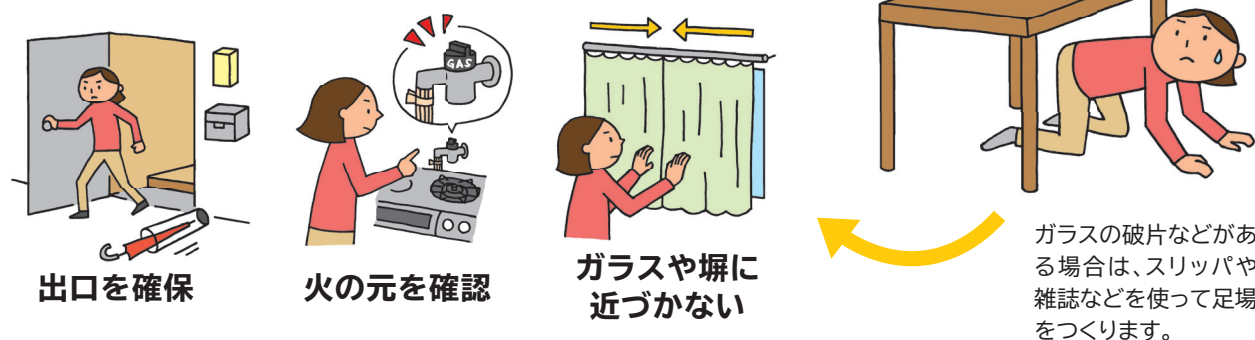
- ▶ 気象情報に注意
- ▶ 非常用持ち出し品の点検
- ▶ 浸水に備えて家具を安全な場所に
- ▶ 雨や風が強くなる前に家屋を補強
- ▶ 避難場所までの道順を確認
- ▶ 早めの準備・早めの避難
- ▶ 台風接近中は外出しない

※広域避難が発令された場合は町の指示に従いましょう。

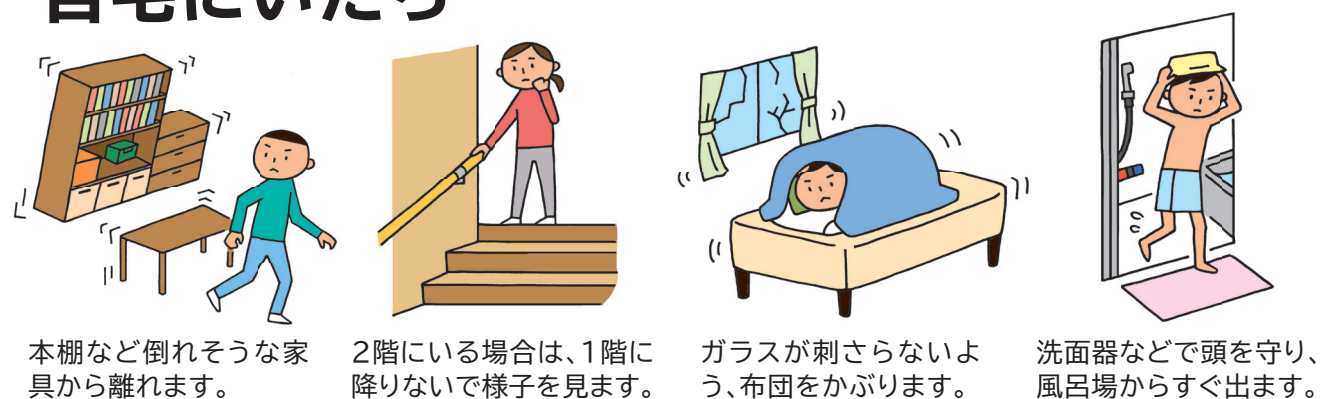
地震

地震に見舞われる状況は様々 正しい対処を覚えておきましょう

地震は突如襲ってきます。緊急地震速報の受信や、大きな揺れを感じたら、落下物から頭を守ります。揺れがおさまったら周囲の安全を確認し、出口の確保などを行いましょう。



自宅にいたら...



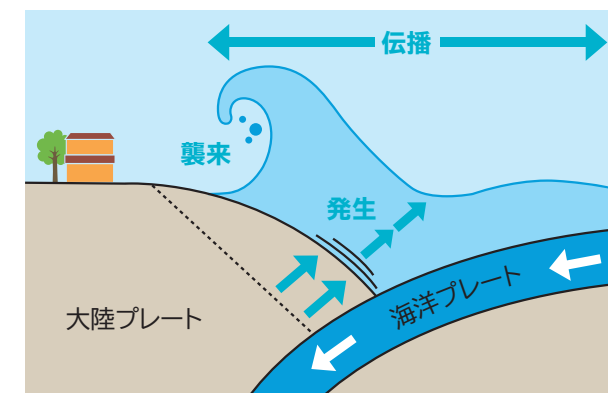
外出していたら...



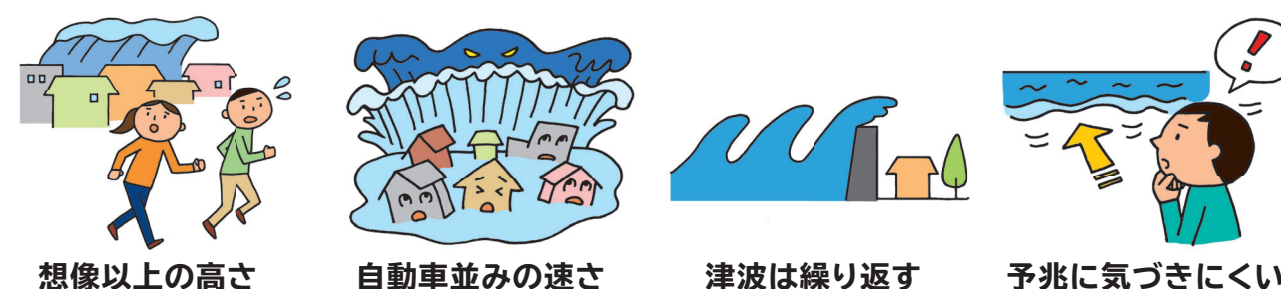
津波

地震と連動して発生する津波 まずは高台へ逃げましょう

地震が起こると海水が動かされ津波が発生する恐れがあります。津波の速さは大変速くなっています。地震が発生したら、揺れが小さくてもすぐに高台や指定緊急避難場所等へ避難しましょう。



津波の特徴



津波警報・注意報

種 類	予想される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現	
大津波 警報	10m超 (10m<高さ)	巨 大	木造家屋が全壊・流失する。人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波 警報	3m (1m<高さ≤3m)	高 い	標高の低い土地は津波に襲われ、浸水被害が発生。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波 注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	表記しない	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。小型船舶が転覆する。

まちにある案内板



海拔表示板

地域の海拔を知り、防災意識を高めるために町内に設置されています。



津波発生時に一時的に避難できる施設です。見やすい位置に案内板があります。

／ とるべき行動 ／

- ▶ 近所の人に声をかけ避難を促す
- ▶ 近くの高い場所に避難
- ▶ 警報・注意報が解除されるまで避難

3日から1週間分の日常備蓄

3日から1週間は過ごせるよう、日頃から食品等
を買い足しながら使うローリングストックなどで備
蓄し、避難時には持ち出しましょう。(→P9)



飲料水の必要量目安

1人1日 **3**リットル × 家族の人数 × 3日分



家の中の備え

地震発生時に被害を減らす方法として、家の中
での対策も効果があります。耐震補強、家具の配
置や避難導線などを再確認してみましょう。

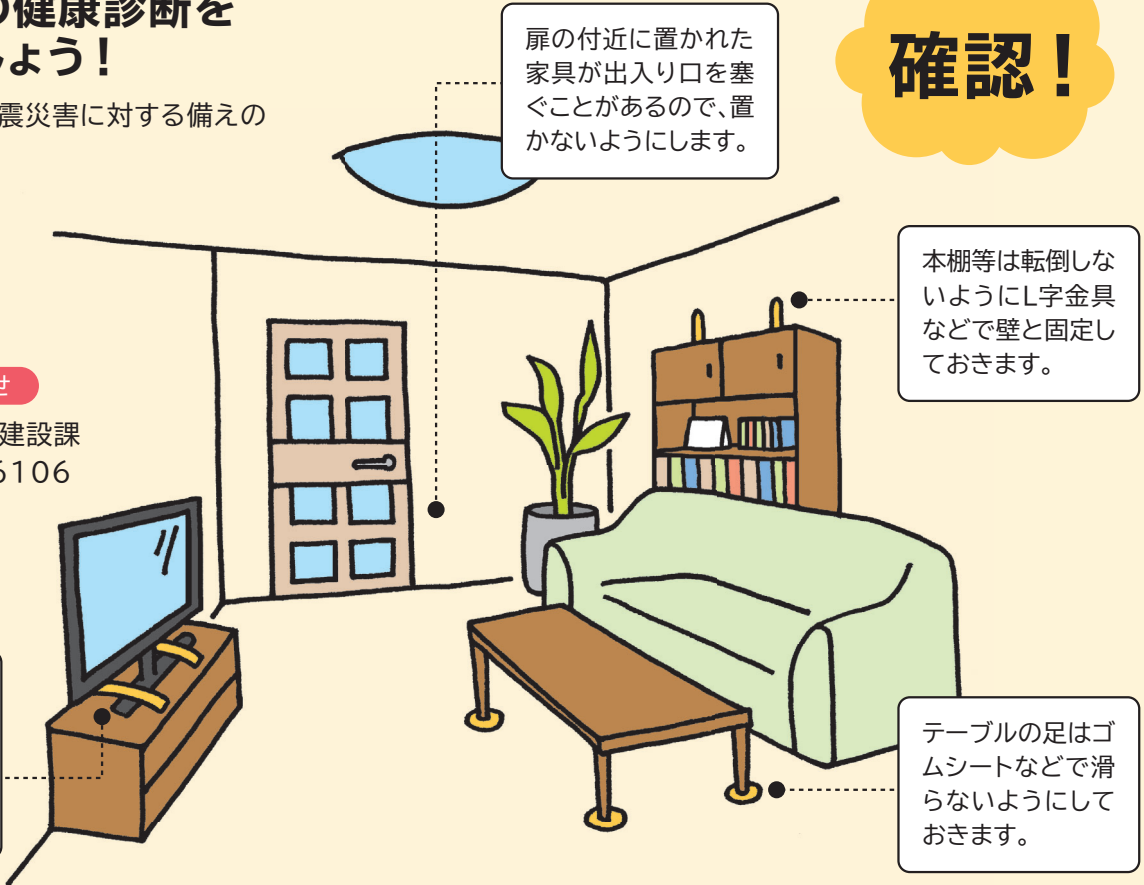
住まいの健康診断を受けましょう!

耐震診断は地震災害に対する備えの
第一歩です。



お問い合わせ
木曽岬町役場建設課
0567-68-6106

テレビが倒れると大怪我の恐れも。
テレビと台はベルトで固定しておき
ます。



備え!

今すぐ やろう!

確認!

非常用持ち出し袋チェックリスト

下記以外にも、必要な項目を書き込みましょう。

☐ 飲料水・食料品	☐ 衣類
☐ 携帯ラジオ	☐ 毛布
☐ ライト(懐中電灯)	☐ 救急セット・消毒液
☐ 電池	☐ 携帯トイレ
☐ ヘルメット・マスク	☐ 現金
☐ 軍手	☐ 家族写真
☐ 筆記用具・メモ帳	☐ 免許証のコピー
☐ 缶切り・ナイフ	☐ 健康保険証のコピー
☐ ライター	☐ 預金通帳のコピー
☐ 歯磨きセット	☐ 自宅・車の予備鍵
☐ 体温計	☐
☐	☐

女性視点の防災

普段から防犯グッズを

防犯ブザーやホイッ
スルがあれば、倒壊
等で閉じ込められた
時に合図ができます。



複数人で行動する

災害時は犯罪に巻き
込まれやすくなりま
す。1人で行動しない
ようにしましょう。

突然の訪問者には要注意!

被災時には訪問者を
装った犯罪も増えま
す。無防備に自宅へ入
れるのは危険です。



避難所運営には男女を配置

女性の経験や意見な
ども取り入れ、男女双
方の視点で避難所運
営を実施しましょう。

防災クイズ

**Q1 地震が起こったら
まず何をする?**

- ①その場から逃げる
- ②家や壁にしがみつく
- ③頭を守ってしゃがむ

**Q2 台風が接近していたら
どのタイミングで
避難したらいい?**

- ①猛烈な雨風になったら
- ②ひざくらいまで浸水したら
- ③浸水もなく雨や風が弱いうち

**Q3 非常用持ち出し袋は
どこに置いておく?**

- ①玄関など出入り口に近い場所
- ②大事なものが鍵がかかる場所
- ③食料を入れるため台所

Q4 津波発生!どうする?

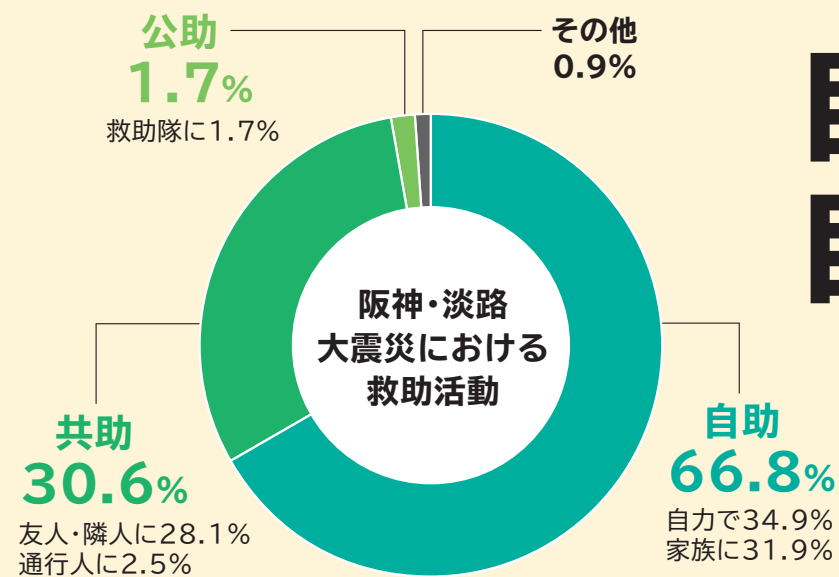
- ①できる限り遠くに避難する
- ②安全な高い場所に避難する
- ③次の情報を待ってから行動する

**Q5 災害の時に、みんなで
助け合うことを何という?**

- ①自助
- ②共助
- ③公助



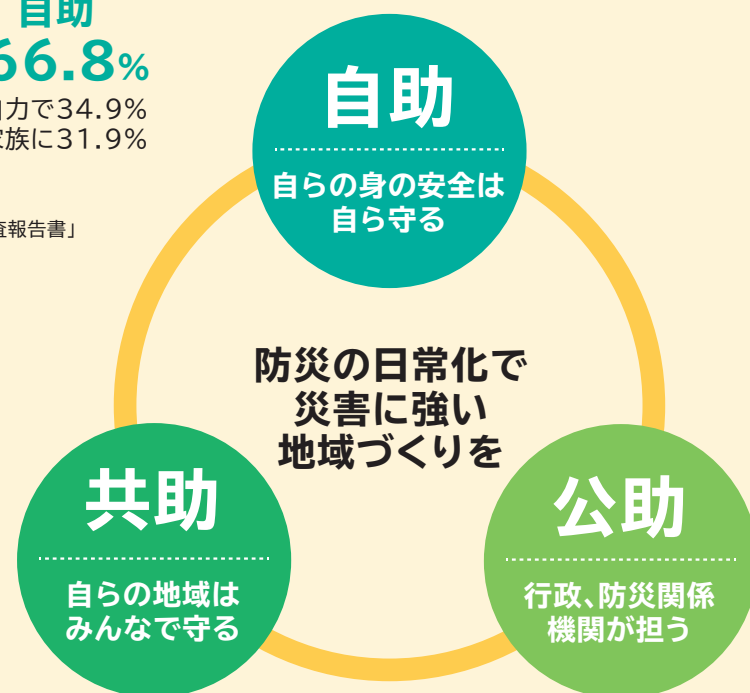
答えは次のページへ



出典：日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

自助、共助の力の高さが災害時に命を救う

過去の阪神・淡路大震災における救助活動の大部分は、自助と共助によるものでした。大規模災害時には、行政等の支援（公助）がすぐ機能しません。自身や地域の安全は自分たちで守るという意識を持っておきましょう。



普段から防災力を高める機会を活用しよう

非常時に備えて、自助と共助の力を高めておくことが重要です。木曽岬町では共助の力を高めるために、自主防災組織による自主的な防災活動を行なっています。これにより個人では限界のある救助・消火活動が、地域で実施できます。

自主防災組織について

地域の防災活動と一緒にしましょう。

お問い合わせ 木曽岬町役場危機管理課
0567-68-6101



自らの命は 自らの地域 自らで守る はみんなで守る

あなたの助けが必要な方がいます

災害時の避難や避難生活等で支援や配慮が必要な方がいます。可能な範囲で地域同士が助け合いましょう。支援が必要な方は、避難行動要支援者名簿に登録しましょう。

高齢者 状況把握が遅れたり、移動に支障があり避難できない人も。一緒に避難しましょう。	妊産婦 足元が見えづらいため避難同行を。ストレスや栄養不足による母体の健康にも配慮を。	障害者 車椅子等の補助具が必要な場合があります。自分の意志を伝えるににくい方もいます。	外国人 日本語が理解できない、地縁がないなど、避難や避難生活に支障をきたす場合も。
子ども 恐怖などによる心身の問題が発生していないか、大人が思いを受け止めましょう。	要介護者 自ら避難することが困難な方が多く、避難所でも生活面での支援が必要です。		

日頃から育てる防災力

 地域の行事に参加しよう	 顔見知りを増やそう	 あいさつをしよう	 家族で話し合おう
------------------------	----------------------	---------------------	---------------------